

事例Ⅰ（２）『外国人世帯の複合課題ケースの対応について～小学校 のケース会議を経て地域で支えることの大切さ～』

1) 概要

小学校より「子どもたちの養育環境を整えるためには、母親の心身の生活の安定が必要。関係機関が集まる機会を設け、現状の共有とこれからの支援について話をしたい」とケース会議への参加依頼があり。ケース会議をきっかけに、ケースの複合的な課題について、地域・学校・福祉・NPO が連携し取り組み、地域福祉の醸成を目指した。

【関係機関】：小学校・幼稚園・家庭児童相談室（以下家児室）・社会福祉協議会（以下社協）・国際交流協会（以下国流）・国際交流協会 SKIP（以下 SKIP）・いこいの家さんだ・じばやん・場とつながりの研究センター（以下場つな）・教育委員会・子ども地域食堂・民生委員（以下民生委員）・学校支援ボランティアコーディネーター

2) 事例の流れと地域福祉支援員の意図・関わり

できごと

・意図 ▶ 関わり

令和6年9月

小学校にてケース会議①に参加

【Z氏・小学校・幼稚園・場つな・家児室・学校支援ボランティア・国流・社協】

・それぞれの機関が単独で関わっていた。何とか共有できないかと感じていた。

▷ 学校側が各関係機関との共有の場を設定した。

令和7年2月

小学校にてケース会議②に参加

【Z氏夫妻・小学校・幼稚園・場つな・家児室・じばやん・国流・社協・教育委員・区長・子ども地域食堂・民生委員】

・複数の課題について整理し、優先順位を共有したい。

▷ 当事者夫妻が参加し、直接困りごとについて聞く機会となる。

令和7年9月

小学校にてケース会議③に参加

【Z氏・小学校・幼稚園・場つな・家児室・じばやん・国流・社協・教育委員・区長・子ども地域食堂・**民生委員**】

・現状の課題について、早期発見早期対応の準備を整えたい。

▷ 夏休み前に関係機関で集まり情報共有、役割分担をする

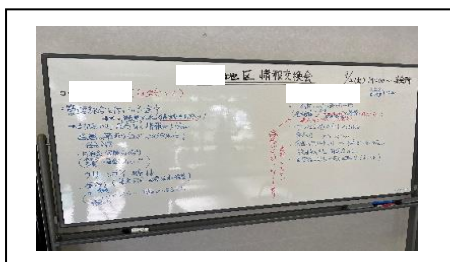
令和8年2月

学校と地域・NPO・福祉の連携について周知啓発する機会を設定する

・今行っている活動を振り返り、さらにモチベーションをあげてもらいたい
▷地域福祉フォーラムに参加・登壇いただき、「教育・地域・福祉の連携による包括的な支援のかたち」について実践発表を行う

3) 成果・効果

- 地域の活動者・活動内容について、お互いを知ることの大切さを感じる機会となる
- 地域と学校との連携について、改めて考えるきっかけになる
- 自然なアウトリーチ機能の展開・充実化につながる
- チームに参加する=チームになっていく。構成要素は安心・自分の領域を少しはみ出す・押し付けない・自分の力を発揮できる・手を伸ばし合う等の感覚大切さを共有する
- 社協が、各ネットワークを磁石のようにつなぎ合わせる存在となる
(情報のプラットフォーム化)



▲見守り会議の様子



▲子ども地域食堂の様子



▲フォーラムの様子

4) 課題

- 個の力（特定の先生）に頼らず、システム化され継続される仕組みになっている（担当教員によって対応・反応が左右されない）状況を目指す
- 一つの機関が頑張り過ぎないよう協働する意識を深める
- 各関係機関（当事者含む）がそれぞれ自らを開く機会を大切にする。
- 専門職機関が個別に動き「縦割り」になりがち。「支援の隙間」が生じる可能性がある。

5) 来年度に向けたコメント（地域福祉支援員より）

- 無機的（事務的・正確だけれど温かみがない）なだけの関係ではなく、人と人が調和する有機的（お互いに絶妙なバランスで影響し合う）な関係性・結びつきを広めていきたい。そのためには単発な出会い（点）で終わらせるのではなく、日常のつながり（面）に向けて紡いでいく・編んでいくイメージを持ちたい。また、「弱いつながり」を大切にしながら、いざという時のセーフティネットだけではなく、早期発見・早期対応が自然と出来る、SOSを出しやすい・拾いやすい地域の醸成に伴走したい。